

2018年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
SS特別選抜コース	生徒一人ひとりの学力の伸長、及び希望進路の実現	生徒一人ひとりの学力を把握し、教職員が共有する。	B	コース職員会(年2回)、各模試の結果報告。	コース生徒の情報共有をより向上させたい。(模試の結果報告をこまめに)
		個々の学習習慣(家庭学習)を定着させる。(1年)	B	早期から意識付けし計画表を提出させるなど計画的学習を心がけた。	家庭との協力。
		実態に即しながらも高い意識を持たせ、きめ細かい指導により、それぞれ第1志望校の現役合格をめざす。(3年)	B	模試のデータを参考にし、第1志望校・実力相応校・安全校を考え、受験大学の選定をしたことは良かった。	多方面からより多くのアドバイスができるようにする。
		「総合的な学習の時間」、「大学見学」等を通じ、進学意識を高め、目標を明確にさせる。	B	(2年)京都を中心とした大学への見学を1泊2日で実施。	更に充実した見学ができるよう考えていきたい。
		「寺子屋学習」および「スタディサプリ」等の活用により、個々の学力の伸長を目指す。	B	時間を設定し熱心に遅くまで勉強する姿が見られた。(1・2年)通常の学業に手一杯で、サプリの活用が乏しい。	塾に通っていない生徒には積極的に勧める必要がある。サプリストの事後指導。
文理選抜コース	総合的な学力の向上を図るべく、計画的に高校生活を送り、主体的に自分の未来を拓く力をつける	生徒一人ひとりの学力を把握し、面談を通して計画的に学習できるように指導する。	A	保護者懇談会を含めて計5回の面談を行い、自分の今の実態と向き合わせた。	
		個々の学習習慣を定着させ、家庭学習時間を持たせる。	B	平日3時間、休日5時間の家庭学習を目標にさせたが、達成したのは2割程度の生徒だった。1日に全く学習をしないという生徒は1割未満だった。	テスト終わりに行っている面談を充実させ、コースとして目標にしている家庭学習の時間を全員が越えられるようにする。
		キャリア教育によって、個々の生徒に適応した望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせる。また、生徒それぞれが創造的・創作的にテーマに取り組みプレゼンテーションを行い、ディスカッションを重ねることで、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨いた。また、英語などの授業でもその教科を活かした内容を発表した。	A	土曜授業にて他コースと協働し自己表現力とコミュニケーション能力を磨いた。また、英語などの授業でもその教科を活かした内容を発表した。	
		部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みと勉強との両立をさせる。	A	部活動や生徒会への取り組みを積極的に行っている。	
学術探究コース 総合学術系統	生徒が潜在的に持つ知的好奇心を喚起し、主体的な学習意欲、探究心、問題発見意識などの向上を図り、多様な価値観を大局的な視野で理解し受け入れながら、周囲と協働しながら課題解決を図れる人材を育成する。	確かな学力、探究心の育成を目指し、授業の充実を図り「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を行う。	A	模試などを活用し、事前および事後指導を確実に行うことで、生徒のモチベーションを高めながら学力向上へと繋げることができた。また、模試の結果を分析し、次に繋げることもできた。グループごとテーマに基づいて、主体的に意見を交わしながら問題に対する学びを深めていくことができた。	1期生として1年生で行ったことを、どう3年間の活動に繋げていくか、また来年度以降、学年をまたいだ活動にどう繋げていけるかも重要であると考ええる。
		キャリア教育を行うことで、1人1人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。課題研究、プレゼンテーション、ディスカッションなどの経験値を積み上げることで、知識から正解を素早く出すことよりも、解決すべき課題を発見する力や、学び続ける強い意志、協働により課題解決の道すじを切り拓く力を育成する。	A	個人個人が設定した、課題に対し、主体的にその問題解決に向けて取り組んだ。論理的な思考を重ね、プレゼンテーションを行うことで自己表現能力を磨いた。それらのことを、ディスカッションすることで、コミュニケーション能力の育成に結びつけることができた。	校内で行っている活動を、校外へどう広げていくかということについて考えたい。
		部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、多くの人間が関わり合うことで、それぞれの持つ個性を洗練し、確固たる「自己肯定感」を有する生徒を育成し、現代の社会に適応できる「人間力」の実現を目指す。	A	部活動や生徒会活動などを通じ、周囲に人間と協働することの大切さと、多様化する価値観への対応力、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。他人のために頑張ることの大切さ、そこから来る充実感の重みを実感として学ぶことができた。	課外活動での経験や力を、どのようにして学力と結びつけて、一般選抜を含めた変化する新テストや、その先にあるグローバル社会の中で、生徒達がどう有効的に活用し、それぞれの道で生き抜いていく力に繋げることができるかを考えながら活動を促していきたい。
		教員自らが教科指導力を高め、授業の質的向上を図る。	B	コース会において、コース所属生徒の学校生活の様子や授業態度、成績などの情報を共有し、それぞれの授業運営の参考にすることができた。	コース内での研究事業や、意見交換会、学外での研修や視察などに取り組めるとよい。
学術探究コース 美術工芸系統	希望進路の実現	キャリア教育を踏まえ、進路実現のため、適切な支援を行う。 専門実習の充実と共に学力向上、美大入試科目の充実を図る。 アートセンター(美大予備校)及び美術大学とも連携する。	A A A	キャリアの為の講演会、美大進学したOBの講話などを実施。 デザインなどの基礎の強化、学力の向上が進んでいる。 講習会、直前講習などの連携、情報共有などができた。	
	生徒の心身の充実	教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う。 美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進、成長を図る。	A A	教員間の連絡、連携が以前より進んでいる。 生徒の興味関心を探りながら、より追求できる様指導した。	
	生徒作品の充実	公募展に積極的に挑戦したり、更なる美工展の充実を図る。 様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせるよう努める。	A A	中信美術展へ入選、入賞をした。充実した美工展ができた。 本年度は、軽井沢千住博美術館、セゾン美術館を見学した。	
	生徒募集活動の活性化	美大進学後の就職を意識した、募集活動を検討、実施する。 美術大学と連携して中学生に対するキャリア教育を検討する。	B A	例年どおり講演会ができた。より活性化の検討必要。 東京工芸大学の教授を招いて講演会の実施。	講演会や、ワークショップの複数回開催、入試方式の検討。 講師の都合上実施の期日が少し遅かった。時期の検討をしたい。
学術探究コース 専修学術系統	学力向上・人間形成	基礎学力の定着を図る。朝ドリルの徹底。	A	国語・数学・英語に関しては切れ目なく各教科担当の先生方にテキストを用意して頂き、週末に各顧問のチェックを確実に遂行し	この方針のまま継続していき、レベルを上げていきたい。また、基礎学力の定着が図れているかチェックできる機会を設けたい。
		「家庭学習の徹底」を身に付けさせるべく、各教科とは別にクラスでの宿題を課していく。 授業等だけではなく、日々の生活面を通して人間力の形成を図る。規則正しい日常生活の安定。	B A	宿題の指示がないと、なかなか日々の取り組みに定着がなされない。 概ね良い。	さらに各教科担当の先生方に課題を出して頂く。生徒によっては宿題を望んでいる生徒が多数いる。 今年度と同様に行う。
	学力・競技力向上の文武両道	学力・競技力を常に比例させ、日々の「基礎課題」に向き合わせ、自分の「土台作り」に徹底させる。そのためには「継続」の言葉の意味をより理解させ、人間力の向上を意識させ育成に取り組む。	A	概ね良い。	今年度と同様に行う。
	進路先の目標設定	1年次より希望する大学を(学力・スポーツ問わず)設定させる事により上位校の進学意識を高める。	B	1年次ということもあり、模試等の実施が少なかったため、目標設定を明確に出来た生徒とそうでない生徒との温度差が出てしまっ	模試を各部活と調整し、できる限り年間3回を目安に、2年次には受験をさせて進学意識を高めていき、目標を具体的に設定させ
	競技ごとに目標設定をし、目標達成に向けて指導計画に基づいた段階的な指導を行う。 生徒個々の特徴をより引き出せるような指導法を日々探究する。 学校内における様々な機関と連携を取り、各部に合った柔軟な指導体制を確立する。	B	各競技の実情に合わせながら、各顧問を中心に目標達成に向けた努力がなされている。今年度は望ましい結果を得られたクラブと、目標達成へ今一步届かない現状が続いているクラブが存在した。しかしながら生徒募集の観点からは人気のあるコースとなっており、安定した実績を積み上げてきている。現状を打破すべくコースのみならず学校全体として改善点の模索が必要であ	長野県優勝、全国大会での活躍を目指す上で、今年度に引き続き、校内における各部署との連携をさらに図り、学校としてのバックアップ体制のより充実を求めていく必要がある。ハード面の整備と、選手育成の指導体制をより充実したものにしていくなければならない。	

2018年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
スポーツ サイエンス コース	学力向上・人間形成	各々の習熟度に合わせ、基礎学力の定着から上位層のさらなる学力向上を目指す。特に基礎学力の定着が不十分な生徒に対して、学び直しの機会を設け、復習をさせることで基礎学力の定着を目指す。自立した生徒を育成し、コミュニケーション能力の向上と集団の中でリーダーになれる人材を育成する。	B	基礎学力の定着に向けて、日々の学習活動の中で新たな試みに着手することができた。以前に比べ、より学習をする習慣の意識付けがなされてきている。各学年の集団的特徴により個々の内面の部分の成長に差を感じる。日常生活の中で自立した個人の育成をより目指すべきである。	基礎学力の定着と学習習慣の確立をさせていく為に今年度の活動を継続していくことが望ましい。また、内面の成長を促す為に、各ホームルームを中心とした教育活動も工夫しなければならない。特にスポーツ活動をしていない時間をいかに過ごすのか自立した判断・行動ができるような考える力を伸ばす必要がある。
	希望進路の実現	競技力・競技実績の向上と、学力向上・人間形成を両立させることで希望進路を実現させる。生徒に適した進路選択を考えさせ、実現に向けた支援を学年や担任と連携を取りながら行っていく。進路開拓の為に大学訪問を積極的に行う。各部独自のセレクションに対応すべく、進路研究を行う。	A	生徒個々に目を向け、それぞれの希望進路が実現できるよう進路指導に力を入れることができた。競技力を活かし進学をする生徒と、学力で進学する生徒に対してそれぞれ個別の指導を行うことができ、希望進路の実現に至った。今年度は就職する生徒が例年より多く就職も全員決めることができた。進路開拓は今後も継続的に行う必要がある。	大学で継続してスポーツを行う生徒が多くなってきたことから、より選手個々の競技力の向上を目指し、セレクションへの対策も行っていく。また、進路開拓の為に大学訪問を積極的に行っていく。さらに生徒に進路の意識付けを早い段階から進めていく必要がある。
食物科	高いプロ意識を持ち、食生活の向上及び食文化の創造に貢献できる調理師の育成と、希望進路の実現	3年間を通して知識・技術の定着を図り、応用力を培う。また、料理の仕上げや盛り付けの評価だけでなく味の評価を行うことで、総合的な力を身につけさせていく。	A	総合調理実習では、身に付けた知識や技術の応用として、献立作成から発注、調理、販売まで行なうことができた。3年間の集大成である卒業記念作品展では、初めての試食会を開催した。	調理実習の授業内では、味の評価を行なうことが難しかったので、引き続き方法を検討していきたい。
		校外実習を通して、社会人として必要なマナー、協調性、忍耐力、コミュニケーション能力などの力を身につけさせる。	B	初の食物科研修旅行(東京)を実施。教科書では得られない貴重な学びができた。また、より多くの生徒にインターンシップ等の校外実習を体験させていきたい。	調理師会との連携を図って、校外実習の受け入れ先を拡大していく。
		きめ細やかな指導により早い段階から目標を持たせ、希望する進路の実現を目指す。より一層の進路開拓を行う。	A	生徒が希望する進路を実現することができた。3年生ではペン字講座、SPI・小論文対策等、実践的な指導も行なった。	引き続き進路開拓を行ない、希望する進路の実現を目指す。
1学年	自主的な学習の取り組みと他への思いやりを持った行動の実現	基本的な学習習慣を確立させる。	A	基礎セミナー実施(総合、美工、食物)先生方が協力し充実した結果が出た。	
		他者への思いやりの心を持たせる。	A	いじめ、からかいアンケート等の結果より、人間関係の悩みを把握できた。	ケースバイケースによる対応が迫られることが多いので、学年会を中心とした小単位の場に報告し皆の意見を聞き、知恵を出し合い皆で解決していく方向に進まなければならない。
		将来の進路について意識させ、目標を持たせる。	A	進路ガイダンスを実施し、角度が変わった方向から指導ができた。具体的な目標を見いだせた生徒も多くなった。	大学で学ぶ具体的な内容も提示することも必要。有名大学も来校してほしい。
		日々の学習、ホームルーム活動に対し自主性を持たせる。	A	担任が工夫し指導することにより、クラスの生徒と有意義な時間が持てた。	学年集会等の年間計画を作成する。
		性に関する意識を深め、健全な生徒の育成に努める。	A	学年集会形式で3回実施し事後指導を5回以上行った。生徒達に性教育は効果あり。	女子に関する指導の勉強会を開く必要がある。気軽に話せる場、窓口がいくつかあっても良い。
2学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材への発展	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。	A	遅刻者が少なく、年間を通して規則正しい生活を送ることができた。	3年次、部活動を引退した後、文化祭前後、入試前後の生活に注意する。
		基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める。	A	家庭学習の時間が増えた生徒が1年次に比べて多くなった。	基礎学力をもとに、入試に対応した学力をつける。
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する。	A	部活動やHR活動、そして生徒会活動を通して育成することができた。特にクラスマッチの運営を生徒が主体となってやった。	進路実現のための基礎。自分自身の考えに責任を持たせなければならない。
		自己はもちろんのこと、他者への思いやりの意識を持たせる。	A	いじめ・からかいアンケート、各HRにおいて確認できた。	合否が出てくる時期こそ、この力が必要となる。
		将来の進路について意識を向上させ、実現のための行動をさせる。	A	年2回のガイダンスと各HRレベルで意識付けができた。	親とも連携をとり、生徒の力と希望に合わせた進路指導を実施していかなければならない。
		沖縄研修旅行を通して、平和に関して意識させ、考えさせる。	A	計画的に進められた。旅行記の作成もできた。	今年同様、年間を通して計画的に実施できるという。
3学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材の完成	18歳選挙権に対応できるように主権者教育を行う。	A	学年集会形式で選挙の大切さを伝え、模擬投票も実施できた。	生徒たちが政治・経済に関心を持ってくれることが大切。
		基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める。	B	授業HRの他に、進路ガイダンスや模試、学年集会等思考を高める企画を実施。	
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する。	A	生徒会活動、特にクラスマッチの運営を生徒が主体となることができた。	
		自己はもちろんのこと、他者への思いやり意識を持たせる。	B	様々な学年行事に於いて協力し合う意識があり、協働する姿が見られた。	
生徒会	生徒会活動の充実	希望進路の実現。	B	概ね第1希望の進路を実現できた。一般受験者への対策の検討が課題として残った。	
		生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする。	A	生徒の意識を高めることができた。	
		日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく。	A	それぞれの委員会の活動を増やした。	
	文化祭の成功	東日本大震災の復興支援やインターアクトクラブなど、学校外に対する活動を充実させる。	A	毎月震災募金活動を行い、日本赤十字社を通して北海道胆振東部地震災害義援金を送った。	
	課外活動の充実	生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られるような文化祭にする。	A	天気が悪く例年以上に苦労したが、スタッフを中心に協力し、全校に喜んでもらえるような文化祭にすることができた。	雨天時の対策を事前に十分に練っておく。
	充実した課外活動になるよう、様々な面におけるサポート体制を構築し、さらに発展させる。	A	入退部届けの整理を行った。	新同好会、同志会の存続、廃部の規定作成を行う。(関係部署との協力)	

2018年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
生活指導部	<p>学校目標に則った生徒の育成</p> <p>元エカの実効性ある指導が実施するための下支えとなる基本的な生活習慣</p> <p>現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実</p> <p>問題行動に対する適切な指導と迅速な対応</p> <p>盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底</p> <p>生活指導方針の周知・徹底</p>	いじめや差別がない学校作り、ならびに早期発見と早期解決。(生活相談と連携)	A	全校生徒対象の定期的なアンケート実施により迅速な対応ができた。	
		悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実。(生活相談・特別支援と連携)	A	生活指導・生活相談・特別支援が連携し対応できた。	
		学力向上・部活指導・進路指導が効率的に指導されるための生活指	A	各担当部署と情報を共有し効果的な活動ができた。	
		教職員側が足並みを揃え、生徒にとって納得が得られる指導方法の構	A	報告・連絡・相談により構築。	
		男女交際に関する教育ならびに性教育の充実。	A	教育講座を主に事前・事後学習が継続的にできた。	
		情報通信端末類ならびにネット(SNS・ブログなど)の使い方に関する指導の充実。	A	集会や教育講座などを活用し啓発活動ができた。	
		学年会との連携による有機的な指導の検討。	A	報告・連絡・相談により有機的な対応ができた。	
		懸念や指摘(被害や苦情)に対する迅速な対応ならびに周知徹底。	A	教職員間の情報共有により迅速に対応できた。	
		校内での盗難の抑止。	A	貴重品管理預かり・校内巡視などを継続実施。	
		自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ。(交通安全)	B	駅前指導・登下校指導・校門指導などを継続実施。	時期・場所・内容等、指導形態の見直し。
在校生と保護者への積極的な情報提供。	A	全校・学年・クラスなど段階ごとの活動ができた。			
本校受験予定者と保護者への積極的な情報提供。	A	中学校講話講師派遣や保護者ハンドブック配布などにより周知・徹底できた。			
進路指導部	<p>生徒が、学校活動(授業・生徒会活動・課外活動・クラス活動等)を通し見出した適性や個性を、十分に発揮できるような進路選択をし、各自の目標を達成できるよう指導する。進路選択の様々な分野について、生徒が体験や見聞を通じて造詣を深められるような機会を設け、自身の適性に合致した選択ができるよう指導する。</p> <p>生徒が自分の適性(学力など)を正しく把握し、的確な進路選択ができるよう指導するとともに、生徒の学力面の弱点を見出したり学力を補うための方策を講じる。</p>	進路希望調査の実施、あるいは面接(進路指導部+担任)を通し、生徒一人一人が何を望み、何に悩んでいるのかを綿密に把握する。そして生徒各々に適した学校・職場へ進めるよう指導する。	A	2年次11月、3年次5月に進路希望調査を実施し、一覧表にして学年会に提示したことにより学年全体の動向や希望を、教員団が把握できた。希望進路が決定できない生徒の悩みを複数の教員で共有し問題解決ができるようにしたい。	悩みを持つ生徒と担任、あるいは進路指導部が面接などを通し問題点をより明確にして、学年会に提示していく。
		進路指導部とコース、学年、クラス担任、また各教科会との連携を深め、協力して学力面などにおいても情報共有に努め、生徒の進路目標達成を援助する。	B	進路希望調査や3学年会を通し、生徒の希望(指定校推薦受験や公募制推薦受験など)を把握し適切な対応をして生徒の進路実現をサポートできた。SS大進コース以外の科・コースに在籍する生徒が一般入試を希望している場合、過去問を教材に個々に指導することもあったが、系統的な学習指導はいまだ不十分だと思ふ。	SS大進コース以外の生徒についても、個々の生徒についての情報を科・コース会や教務会などと共有しながら「センター対策」や模擬試験の受験など手厚い指導をしていくべきである。
		学校・職場の状況や入試の方法など、進路に係わる情報を提供する。	A	推薦入試を希望している生徒については、過去3年間の本校卒業生の「受験報告書」を参考にしながら受験対策をアドバイスすることができた。また、1学年集会、3学年集会、就職希望者説明会を通じ受験形態のことや受験の心構えについて説明した。	掲示物を使って受験情報の伝達や進路情報資料の配布、また通信を発行するなどして、より具体的で有用な情報提供に努める。
		進路選択に有用なガイダンス、対策講座を長期休業やテスト期間を活用して企画する。	B	系統別の分科会形式のガイダンスや、推薦入試、就職試験のための面接指導の実施、また信州大学受験に特化した説明会や公務員試験対策講座を実施したが、信大経法学部の推薦入試合格など一定の成果はあったと思う。	学年会の意向に沿いつつ、生徒の希望に即して、ガイダンスや体験授業との連携を図っていく。

2018年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
教務部	他部署との連携を図る	文書・選択表等を期日を決め確実に集める。	A	時間割係を中心に選択調査を一元化し、PCへの記入も一本化できた。	LHR等を計画的に利用して、早い時期から生徒の意識を啓蒙する。
		授業変更・自習監督の円滑化。	B	ほぼ円滑に実施できたが、曜日、教科によって変更する監督が固定化してしまった。	選択授業・習熟度が減っていくので、授業変更を中心に円滑化したい。
	来年度カリキュラムと新課程カリキュラムの完成	学科コース主任会との連携。	B	教頭を中心に連携はできた。	更に緊密な連携を模索したい。
		各教科との連携。	B	時間割係からの早い連携で円滑化が図れた。	教科会での検討を計画的に実施し、連携を図りたい。
	学力向上を目指す	特別授業・補修授業の充実。	B	科・コースの協力のもと夏期・春期と前年度より充実できた。	コース・系統の学力向上計画に合わせた特別授業の実施と平常の授業のレベルアップを図る。
	成績処理の円滑な運用	新要録への対応。	B	成績に関係する資料等の作成が、担任がスムーズにできるようになった。	より使いやすいシステムを構築する
	主権者としての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な知識・資質を養う。	全校で10月に行われる憲法人権平和教育集会の事前・事後学習を計画的に行い、理解を深める。	B	今年度は人権問題を取り上げハンセン病元患者を主人公とした「あん」を全校で鑑賞したが、生徒も関心が高く分かりやすい内容だったので理解を深めることができた。	事前に考えていた映画の内容が難しく、変更したため事前学習が十分にできなかった。内容が確認できる映画を選定する。
		2学年で行う主権者教育を計画的に行い2月に模擬選挙を実施する。	A		
		2学年で行う平和教育を計画的に行い、12月の沖縄研修旅行につなげていく。	A	学年中心に集会を開き事前学習が十分に行えた。	学年中心に行い、授業でも研修旅行前に沖縄を中心とした平和学習を行えるように教科とも連携して行う。
	行事企画の円滑な運営	2ヶ月前連絡の徹底。	A	外部への連絡も徹底できた。月暦を早い段階で周知できた。	関係部署と緊密に連携する。
		ミスをなくす。	B	年間行事に関して当初ミスがあったことは反省点であった。	早い時点で計画を示し、複数の視点で点検をする。
		反省の集積。	B	各行事を教務を中心に計画することにより反省を次年度以降に集積できた。	記載を早めにしていく。
	適正な定員確保のための入試	基準の見直し。	B	SS特別奨学生B方式の基準を変更。	受験生の確保の為の方策。
		入試内容の検討。	B	専修学術系統で特別・一般入試を実施。	受験生の確保の為、多方面で検討必要。
間違いのない教科書選択	各教科・教科主任との連携、確認の徹底、期限厳守。	B	早めの提出を呼びかけて、ほぼ期限を守っていただくことができた。教科によって、非常勤の先生の教材の確認がうまくいかない教科書取り扱い業者の変更があり、今まで以上に学校でできることに取り組むことができた。	各教科主任の先生方にさらなる協力を求めていきたい。	
	円滑な教科書販売ができるような支援。	B		学校での締切など、守れることはしっかり守り、迷惑をかけないように呼びかけていきたい。	
図書視聴覚部	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する。	B	校内放送設備の更新をし、安定した放送が出来るようになった。一方で時代に沿った設備の検討も引き続き行う必要がある。	係の不手際もあり本年度は視聴覚教材の活用については不十分になってしまった。新年度に早急に対応するとともに時代に合った方策を考えたい。	
	図書館利用の活発化	B	「図書館だより」を発行し、委員会時に配布した。図書委員会の当番活動など、委員会活動がより活発になってきている。	バーコード化を進めること。各クラスの図書委員と連携し、図書館内の環境整備、広報活動に努める。	
	読書活動の推進	B	日本文学全集、世界文学全集、小論文関係の推薦図書、高校生に人気がある文庫本を購入した。「七夕」「クリスマス」の時期に合わせて、イベントを企画し、関連した書籍を購入、展示した。夏期に『ホラー小説、恐怖文学』のコーナーを設けた。	「読書週間」など期間を設定して、全校で本に親しむ機会を設けた。様々な視点から、良書を選定すること。	
環境衛生部	生徒の心身の健康問題の早期発見・早期対応	検診で指摘を受けた生徒への年4回の受診勧告と顧問への勧告を行い、各科目受診率を達成する。	B	部活単位の勧告は実施することができなかったが、クラスへの勧告を学期毎に行い、視力は昨年より受診率が上がった。しかし耳鼻科、歯科の受診率は昨を下回ってしまった。	部活単位の勧告を実施し、特にスポーツにおける歯の重要性を伝え、歯科受診率の向上を図る。
		感染症罹患(りかん)者が出た場合、早期に全職員へ周知徹底し、生活習慣を見直させる指導を促し、感染拡大防止措置をとる。	B	4クラスが学級閉鎖となったが、それ以上の広がりはなかった。昨年度の卒業記念品であるスチーム式加湿器を各クラスに設置したことが予防につながった。	引き続き換気、手洗い、うがい、咳エチケットの指導を徹底する。
	健康啓発活動の充実	A	セルフメディケーションを意識した保健指導を行い、生徒の健康意識と自己責任能力を高める。	引き続き浸透させる。	
	学習環境の整備	A	行事前の清掃の徹底も行き、校内美化に取り組めた。特にトイレは保健委員会による清掃点検により清潔が保たれた。	各クラスの清掃分担場所の適正な配分の計画を立てる。日常清掃時に窓ふきができるように準備する。	
	資源の再利用	A	清掃委員会・環境委員会と協力し、校内基準での分別、紙製品・紙パック・ペットボトルキャップの回収ができた。	ごみの減量化を図る。	
防災意識の定着	B	年2回の防災訓練の実施と、調理室の防災自主点検の実施。	1回の実施に留まったが、避難訓練の際の消火訓練と、消防署の方の講話により、防災の意識づけができた。	年2回の防災訓練を確実に実施する。入学時作成した、登下校における災害発生時の初期避難対応について確認、修正を促す。	

2018年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
渉外部	教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する。	学級・学年PTA活動の充実。	A	4月の学級学年PTAでは、多数の保護者の方に出席していただいた。学校と家庭のよい情報交換ができた。3年生については、よりよい進路選択が実現できるよう、進学希望と就職希望それぞれに分かれての説明会が行われた。	子ども達がより一層充実した学校生活が過ごせるよう活動していきたい。
		地区PTA活動の充実と参加人数増。	B	各地区ごとに有意義な交流がなされた。開催地区は昨年に引き続き少なめだった。	各地区ともに、必ず年1回以上の実現をしていきたい。
		委員会活動の推進。	A	各委員会とも年間を通して、充実したPTA活動ができた。	より一層充実したPTA活動を行っていきたい。
		PTA研修の充実と参加人数増。	A	東京方面へのPTA視察研修旅行であった。過去最多の参加人数で、大変好評であった。	来年度も本年度と同様に、多数の保護者の方に参加していただけるよう計画を立てる。
		総会及び役員会の参加人数増。	B	総会では、昨年に引き続き、多数の保護者の方に出席していただいた。食物科3年生が作るお弁当は好評であった。役員会の参加人数は、少なめだった。	保護者の方が、より楽しくPTA活動ができるよう努力していきたい。
	中信地区私学助成推進協議会の活動を展開	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る。	A	助成額アップなど目に見える成果はなかったが、継続して活動していくことが重要である。	平成32年度の事務局輪番に向けて、運営の引継ぎを確実に行う。
同窓会組織の充実活性化	イベントを組むなど総会を有意義なものとして参加者を増やす工夫をする。(タイムカプセル行事など) / 先生方の協力を仰ぐ。 同窓会役員と連携を取りながら更なる組織の充実化、活性化を図る。 年2回の役員会を開催。	イベントを組むなど総会を有意義なものとして参加者を増やす工夫をする。(タイムカプセル行事など) / 先生方の協力を仰ぐ。	B	先生方や卒業生が参加したいと思う工夫を更に検討したい。	先生方に積極的に声掛けをし総会に参加してもらおう。
		同窓会役員と連携を取りながら更なる組織の充実化、活性化を図る。	B	同窓生の情報をさらに集める工夫が必要。	同窓会事務局をつくり、専任の担当者を配置する。
		年2回の役員会を開催。	A	例年通り実施できた。	
安全管理委員会・個人情報管理委員会	学校内の安全を維持し、災害やトラブルを未然に防止するための諸活動を行う	あらゆる災害やトラブルを想定したマニュアルの点検と浸透のための諸活動を行う。	B	マニュアルを使用する事態に至らなかったことは幸いであるが、常なる見直しと共有が必要である。	来年度においては、見直す(血液を通しなおす)機会を設けたい。
		教職員側の教育活動における人道的観点の維持と浸透を保つ諸活動を行う。	B	係が常に生活指導部・特別支援に関わり、危機管理面での共有ができています。	来年度以降においても、報告・連絡・相談を重視していく方針に変わりはない。
		「個人情報の取扱ならびに管理方針(プライバシーポリシー)」の点検と浸透のための諸活動を行う。	A	これに関する教職員の意識が高まっている。	来年度においては、見直す(血液を通しなおす)機会を設けたい。
学校衛生委員会	健康課題の把握・対策	上記の「管理方針」とは別に設けている「日常的教育活動におけるガイドライン」に沿って教職活動が行われているか確認をする。	C	教職員が日常的に使用するUSBフラッシュメモリー等の取り扱いに不安を感じている。	来年度においては、確認事項としての内規を作成し、これの合意を達する必要がある。
		健康課題の把握・対策	A	校医の先生方と情報交換会を行った。	引き続き次年度も行う。
		生徒募集ならびに本校の良さのアピールに有効な広報の手段(媒体と内容)を考え、それを連動させた年間計画を立て、予算の範囲で効果的な広報活動を行う。	B	「自分は真面目、他人に親切」に納得し、本校の教育内容に魅力を感じた受験生を増やすべく努めた。	来年度以降においては「奨学生・推薦入試での出願80%以上」を達成したい。
広報企画委員会	健康課題の把握・対策	新しい科・コース・系統の内容・魅力が伝わるよう、各科・コース・系統との連絡・確認を密にする。	A	科コース系統主任会を通じ、連携を密に取ることができ、多くの協力を得られ、主体的に展開していただけた。	来年度以降においては、効果的な広報について更なる研究をし、予算内での効果的な広報を展開したい。
		上述した内容が本校HPに反映されるよう改訂と更新を進め、HPにおいてはリアルタイムでの発信をしていく。	A	HP担当の教職員に積極的かつ主体的に取り組んでいただき、スピーディーで良いHP更新となった。	来年度においてはHP担当の教職員が変わるが、情報発信の質と量が今まで以上になるよう、教職員間での一体感(熱量)を高めた
		クラブ活動を通しての心身の育成を促す クラブ活動全般に対し助成を行う クラブ活動を通しての生活指導の研究、実践 競技力向上のための正しい指導法の研究	A	適正に分配することができた。部室の施錠の管理を徹底した。	次年度も適正な分配をする。後期補助については実績等を考慮して配分するかどうかを、次年度も継続して検討する。
将来構想・少子化対策委員会	校舎改修 全県に興味を持ってもらえる学校づくり	校舎改修の具体的な立案。	A	具体的な立案を行えた。	次年度の工事に向けて詳細を詰めていく。
		SNS、メディアの積極的な活用。	C	広報企画とタイアップして取り組む必要がある。	特に受験生増につながる方策を検討する。
学力向上・新テスト担当委員会	過去2年間に於いて立案してきた個々の計画をルールに乗せるための諸活動を行う	その諸活動の成果としていわゆる「学力の三要素」が伸びるよう、特に進路指導部と連携し、各教科の対策をまとめ、実行する。	B	委員会による起案・提起の構想が、教職員の協力の元に具体的な形となった。	来年度以降においては、具体的な構想の主管型の分掌に移行されるが、委員会として全面的にバックアップしたい。
		やがて導入される「新テスト」について引き続き研究し、その対策としての諸活動を行う	B	新テストの研究と、それに関する共有はできているものの、普段の授業と進学の指導において生かされていない状況がある。	来年度においては、「JeP」「CEFR」「ICT教育」などについて、共有・促進できるように全力を傾注したい。

2018年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
国語科	学習を総合的に進め、思考力をのばし言語感覚をみがき心情を豊にし言語文化に対する関心を高める。	漢字検定全校受験。	A	全校受験に向けて現代文の授業なども活用して、意識を高めることができた。夏の有志による受験も、年々希望者が増えていることはよいことだと考える。進学などに有効な資格として捉える生徒を増やすことができている。	進路をさらに意識させ、検定取得に関する意識をさらに高めるための啓発をより進めていきたい。漢字、語句の習得は、基礎学力の土台となることをより一層生徒に意識付けをし、普段の授業での小テスト、各学期の考査の中で力の定着を図る。
		小論文模試などを活用し、入試に必要なスキルを身につける。	B	各学年例年通り実施した。3年生は、進路に結びつけるため、事前指導から丁寧に行うことができた。国語表現の授業も有効に活用することができた。	どちらかというと学年ごとの取り組み、という意識が根強いので、より体系的に取り組むことが必要だと考える。コースによって意識の差をどう改善していくか。
		テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に学習。	A	各授業の中で、進路に結びつく実力を養成することが出来た。一部コースでは、古典に関しては習熟度別授業を展開し、その他の単独コースは、生徒それぞれのレベルに合わせた授業を行うことできめ細やかな指導を行えた。	文学を読み解くという国語の持つ普遍的性格や役割と、コミュニケーション能力のスキルアップに繋がるための、今求められる国語としての役割を、バランス良く授業の中で展開していく。
		一般・推薦・AO入試等に対応できるように、個々に応じた指導を行う。新テスト導入に対応できる学力を身につけさせる。	A	推薦やAO入試に対しては、各教員がそれぞれの生徒に志望校に対してきめ細やかな指導が行えた。学力向上に関しては、教科会で模試の分析を行い、弱点部分の克服などについて話し合うことができた。8限時河合塾古漢サテライト実施。2、3年生を対象とし、SS以外の他科コースからも受講者がいた。	学力向上に対してPDCAサイクルのさらなる強化と確実性を高める。授業の質の向上を常に追求する。
地歴公民科	教科指導の充実	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく。	A	生徒に興味を持たせるために導入にICTを用いて行った。一人一人の理解を深めさせるために、放課後補習を行った。	生徒が主体となって考え自分の意見を発表する機会を設ける。
		各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する。	A		
		思考力・判断力・表現力を育成するよう、授業やテストを工夫する、一高スタンダードの活用。	B	Daiichi Standardが十分に活用されていない。	Daiichi Standardの改定を実施する。
主権者としての自覚向上	授業等を通して、主権者としての意識を高める。	A	2学年の授業で十分に時間を取り、2月に模擬選挙が実施できた。	実施期間、時期の検討をする。	
数学科	各科・コースの特徴を活かした授業内容を実践し、生徒それぞれの学力向上を目指し、数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。	授業以外でも寺子屋の実施など生徒個々の到達度に合わせた指導を行い、模試など学外の試験を積極的に利用する。一斉テストを行い有効利用することで学力向上を図る。	A	生徒個々に応じて指導を行い、模試など学外の試験を積極的に利用した。分析を元に共通意識を持って授業を行うことを確認した。	一斉テストは来年度の4月定期に行うことになったので、その結果を受けて基礎定着を図る。
		補習や教材を充実させることにより事前指導を徹底して行い合格者を増やす。	B	今年度は1回しか数学検定を行うことができなかった。	検定に関して関心を持ってもらえるように指導していく。
理科	理科の基礎学力の定着と、科学的思考力の向上。	全科・コースで、教科書内容を一通り履修し、高校生として学ぶべき必要最低限の知識・技能を習得する。	B	基礎学力の定着までは至らなかったクラスが存在する。基礎学力定着のために、家庭学習をより促す必要がある。	宿題の頻度や量をもう少し増やすことにより家庭学習に取り組む機会を増やす。
		実験や視聴覚教材等を効果的に活用を図り、学習内容を身近な現象と結びつけることで、自然科学に対する理解を深化させる。	B	限られた授業数で、十分な実験等を行うことができなかった。	実際に、実験等を行えなくとも学習内容の印象を深めるために、より多くのデジタル教材の導入を検討する。
		問題演習、小テストを通しての基礎学力の定着を図りながら、科学的な思考力・応用力を付けることにより、学力の向上を図る。	A	上位クラス中心に小テストの数を増やしたり、課題を充実することによりある一定の学力の向上が図れた。	より洗練された課題の設定等を行い、さらなる科学的思考力の育成に努める。
		新テストに対応した課題を扱い、科学的・論理的に考える演習を行う。	B	新テストを意識した授業展開を行ったが、さらに充実した授業展開を目指す。	通常の授業では、教科書を進め、通常の演習に時間を取られてしまうので、特別授業をより有効に活用していく。
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために・・・	スポーツテスト実施による体力把握。	A	概ね良い。	今年度と同様に行う。
		バレー・バスケットによる集団スポーツでの体力とコミュニケーション能力の育成。	A	概ね良い。	今年度と同様に行う。
		柔道では「心・技・体」の重要性・認識の育成。	A	安全面を重視し、生徒に護身術等を重点的に取り組めた。	今年度と同様に行う。
	心と身体の育成のために・・・	「心と身体のバランス」の重要性についての育成。	A	概ね良い。	今年度と同様に行う。
		青春期の「性」に対する考え方の育成。	A	概ね良い。	学年集会等で行った内容についても授業に取り入れていきたい
		現代の「少子高齢化」・「社会保障」等の諸問題の育成。	B	現実問題として生徒達自身には、身近に感じる生徒と感じられていない生徒との温度差があった。	より時事問題や新聞記事等を活用し、現在の重要問題である事を伝えていきたい。
保健授業でのアクティブラーニングの導入	プロジェクターやPC等を使いグループ学習を取り入れる。	B	昨年度よりは確実に実行できたが、より生徒主導の授業ができるように勤める。	PC教室や視聴覚教室等をより活用していきたい	

2018年度学校教育評価表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
外国語科	基礎学力の充実	生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開。小テストなどを取り入れた基礎内容の定着。	A	基礎セミナーやDaiichi Standardを有効に活用することができ、結果として基礎学力の向上ができた。習熟度別講座展開により、無理のない授業進行や、講座に合ったテスト展開をすることができ	基礎学力定着のため、授業開始の活動として、基礎内容の定着のための音読や小テストなどを効果的に取り入れるなど、さらに授業の充実をはかる。各講座の到達目標を定める。
		定着させた基礎内容を応用した問題解決能力の育成。	B	授業やテストに暗唱を取り入れることで、自然と基本的な英文を身に付ける策を取ることはできたが、応用へ活かす点で課題が	どのように応用させるのか、授業内に運用するための活動の取り入れ方について、実践しながら、研究を進める。
		高等学校基礎学力テストを視野に入れた、教科書を最大限活用する4技能を意識した授業展開。	B	暗唱を取り入れることで、自然と4技能を使うための基礎を身に付けている。本文以外の教科書の利用の仕方について、さらに検討が必要である。	教科書を上手に利用したS技能の授業展開について、実践を通して、研究を進める。
		長期休暇の各講座に適した課題提示と課題内容理解度の確認。	B	休み明けテストの実施と、事前の課題提示ができた。さらに内容の検討が必要である。	学習の方法について分からない生徒が多くいる中で、具体的な課題提示を行い、定期テストと上手に連動させていく。
		ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強しながら、自ら発信する力の育成。	A	ALTの関わりのおかげで、特にスピーキング面において生徒が前向きに取り組んだ。	様々な講座で積極的にALTの活躍場面を設け、生徒の4技能向上を目指す。
	進路実現のサポート	センター・二次対策・私大入試に向けた問題演習と個人指導。	B	問題演習の機会は数多く持つことができたが、個々の志望校対策に課題が残った。また、担任の先生や担当の先生に任せきりになってしまった。	模試等を活用した面談を通して、生徒が主体的に志望校分析をしていくよう促す。また、個々の生徒に合わせた志望校対策を意識して授業を行いたい。
		サテライト教材の活用。	A	サテライト教材への生徒の興味関心が高く、積極的な参加が見られた。	生徒が主体的に教材を活用していける体制を作り、今後も上級生が使ったものを下級生も上手に利用していけるように連携を取って
		GTECの研究および対策・受検指導ならびに思考力に関する研究。	A	初めての試みで分からないことが多かったが、日頃の授業で対策を意識した内容に取り組む事ができた。また、長期休みを利用して事前学習と事後振り返りができた。	来年度、より多くの生徒が受検することになるが、上手な運営方法と各授業での事前事後対策に取り組みたい。
		英検の受験促進および二次試験面接指導。	A	面接指導が攻を奏し、英検二次試験で高い合格率を上げることができた。	来年度、英検受験者を増やすような働きかけをし、面接指導も継続して行う。
	教科会として教授法の研究	大きく変革していく大学入試を見据え、4技能の向上を目指す授業方法の研究と実践例の共有。	B	個々に研修に参加することはできたが、全体として研究するまでに至らなかった。	教科会を通して、授業実践の共有や、各種研修会へ参加し、さらなる知識を身に付けていく。
芸術科	芸術の幅広い活動を通し豊かな情操を養う(望まし人格の完成)	芸術文化についての理解を深め、生徒にわたりの芸術を愛好する心情を育て	A	生活や社会の中における芸術との関わりについて深く考えさせ	
		互いに批評し合う等言語活動の充実を図る。(鑑賞教育内などにおいて)	A	鑑賞の時間を増やすことで結果、積極性およびコミュニケーション能力の向上が図れた。	
		感性を高め、幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身につける。	A	創造的に表現するためのスキルアップを図れた。	
家庭科(専門教科)	座学と実習を関連づけた学び	生徒が自ら課題を見つけ、学び、考える力を身につけるため、座学と実習をリンクさせた授業を構築していく。	B	調理理論と調理実習においては、座学と実習をリンクさせた授業を構築できた。栄養学や食品学においても同様に行なっていた	カリキュラムを見直して対応していく。
	より高度な技能の習得を図る	理論を踏まえた実習内容の構築。校内外の様々な行事で総合調理実習の機会を設けていく。	A	PTA総会や長野県私学研修会において弁当製作を行ない、総合調理実習の成果を発表できた。献立作成にもっと時間をかけて、より充実した実習内容にしていく。	今後も校内外の様々な行事で、総合調理実習の機会を設けていく。
	課題研究の充実	通常授業や特別授業、また課題図書や講義などを通して、食をめぐる社会状況への興味関心を深めさせていく。	A	授業の中で、タイムリーな食の話題やニュースを取り上げ、食をめぐる社会状況への興味関心を深めさせることができた。ビデオ視聴や社会人講師講演会もよい機会となった。	一定の成果は出てきているので、発表の機会を増やして生徒のプレゼンテーション能力を高めていきたい。
家庭科(一般教科)	自立した生活を送るための知識や技術を身につけさせる	衣・食・住に関する知識の習得のみでなく、実習の充実を図っていく。	B	様々な実習を通して基本的な知識と技術の習得ができた。環境問題や福祉についても学習を深めさせていきたい。	早い段階で環境問題を取り上げ、高齢者と福祉をリンクさせた学習を行なっていく。
	子どもの発達の特徴を理解し、子どもとの関わり方を学ぶ	子どもの心身の発達や保育への理解を深め、子どもを養育する力を育む。実際に幼児や児童と触れ合う機会を持つことで、体験的な学習を行う。	A	小学校実習や紙芝居を通して、子どもの発達への理解を深めることができた。子育て支援の単元では時間が足りず、現代の社会問題まで学習が及ばなかった。	子どもの保育の意義と重要性の単元で児童福祉について触れ、子育て支援の単元につなげていく。
情報科	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。(情報モラル)	A	SNSについて、著作権や肖像権について理解が必要。インターネットを安全に活用することができた。	SNSについて、具体的な例も増えているので示すことにより理解向上する。カメラ付きの端末についての理解を向上する。
	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する	情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させる。(文章処理、表計算)	A	基本的な技術を習得し、思い通りに使いこなせるようにする。	基本的な技術を習得するために、文字を打つという技術をしっかりと習得させていく。
	コミュニケーション能力を養う	コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解させるとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解させる。(プレゼンテーション)	B	グループワークなどを使い調べ学習や発表をする機会を作りコミュニケーション能力を伸ばす。	プレゼンなどをして、グループの協調性などを向上させていく。
美術工芸科	美術工芸を通して生徒1人1人の成長を目指す	それぞれの分野において徹底した基礎力・知識を身につける。	A	専門的で幅広く多様な内容について理解を深めさせた。	対象を深く観察し、表現を工夫する技能を更に徹底して身に付けさ
		集中力・持続力・体力の向上を図る。	A	様々な機会で作形表現を追求する態度の形成を図れた。	
		探究心・向上心をもって制作する姿勢を身につける。	A	専門的な美術や工芸に関する研究も多く取り入れたことで生徒一人ひとりの意識も大幅に向上。	
		画一的でない表現力、創造力を持った生徒の育成。	A	創造的な思考力、判断力、表現力の育成に注力した。	
		幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身につける。	A	自然と美術、生活や社会の中での美術について深く学べた。	